

2024・6・28【俳壇賞2024C候補】 選108句

①
3

壇 問ひ質す鏡よ鏡春の昼

壇 荒梅雨や紙類重きランドセル

壇 穀割つて出づるが如く寒明くる

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 教科書よノートよ梅雨のランドセル

壇 二三日寒の戻りに明け渡す

壇 花に来て蕊の細さの蜂の脚

壇 炎天の酸素不足の喘ぎなり

壇 春めく日春めかぬ日を挟みつつ

壇 この季語は動かぬという子猫かな

壇 戻り梅雨ふり出しさうで風強き

壇 大空は酸素と窒素春の雪

壇 落椿朽ちゆくまでの日数かな

壇 西日いまビルの背中を舐るなる

壇 ジャン・ポール・サルトルの吹く石鹸玉

壇 芽吹く如くに密集のブラシの毛

壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す

壇 石鹸玉にも球体の志

壇 紅白の梅あはあはと桜かな

壇 家出する娘のハンカチーフかな

壇 石鹸玉性善説を広めよと

壇 神兵の夏、ジャングルに飢えて死ぬ

壇 水曜の朝の娘のハンカチーフ

壇 春燈や一番星に先んじて

壇 あけまして梅雨より更に耐へ難し

壇 打水もなし天竺へ続く道

壇 めらめらと音おそろしき畦火かな

壇 風薫るつかまり立ちの時代かな

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 渦潮は万ののの字を呑み込んで

壇 予報たがはず連日の大夕立

壇 老の白日傘若きの黒日傘

壇 これ見よと足長蜂の長き足

壇 教科書もノートも梅雨のランドセル

壇 老若を問はず日傘の黒と白

cf 4/23のもの
9.28
20:11

法め法よ

秋のを

選る

9.28

19:55

19:56

2024・6・28【俳壇賞2024C候補】 選108句

① 3/3

壇 ふるさとへ召集解除豊の秋

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

壇 新海苔の十進法で束ねられ

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 初雪の雨に消えゆく小半時

壇 外寝にはまだ辛きころ鬼は外

壇 蚯蚓鳴け恋の愁ひも聞いてやろ

壇 ちらちらと雪ふりそめし曇り空

壇 追ひ出され鬼の家族のホームレス

壇 遠雷も蝸も消え月淡し

壇 ゆくゆくは白装束の枯野かな

壇 追はれたる鬼の家族のホームレス

壇 かなかなのかなかなをよぶゆふべかな

壇 文明や火なし懐炉に火傷して

壇 見えてゐて遠き星座やクリスマス

壇 かなかなのカナカナと鳴くこともかな

壇 火事跡の何も支へぬ柱かな

壇 鳴の陣の足ばかり見ゆ鯉の上

壇 この家は今年も紺の朝顔を

壇 火事跡の黒き柱の長短か

壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 鏡台は燃えつつ火事を映しをる

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 離れるだけ離れて遠し月と桃

壇 着ぶくれし人に囲まれ横たはる

壇 寂しさに赤く咲きたる冬薔薇

壇 割れ石榴あまりのことと言ふように

壇 湯婆に生れ火炙り足蹴かな

壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 燃やせるごみ専用袋冬帽子

壇 初写真この笑顔こそわが遺影

壇 打ちのべて黄金の香なる霜夜かな

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 初詣疲れを許す神仏

2

- 壇 大空は酸素と窒素春の雪 壇 硬く深く締めたる螺子や秋の夜
壇 石鹼玉性善説を広めよと 壇 錆びつきし螺子の頭や秋の夜
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 おのづから鼓動と呼吸夜の長し
壇 神兵の夏、ジャングルに飢ゑて死ぬ 壇 長き夜の推敲楽しからざるや
壇 炎天の酸素不足の喘ぎなり 壇 長き夜の推敲楽し次々に
壇 西日いまビルの背中を舐るなる 壇 秋の雲狙ひ澄ましてゐたりけり
壇 汗かかぬ齡さびしと句に記す 壇 PCも書籍も四角けふの月
壇 家出する娘のハンカチーフかな 壇 かはいいとかはいさうとの露の夜
壇 水曜の朝の娘のハンカチーフ 壇 真つ暗な回送電車天の川
壇 打水もなし天竺へ続く道 壇 満月といふ恥ぢらひの無き光
壇 打水を終へしホースをぐるぐると 壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる
壇 老の白日傘若きの黒日傘 壇 蚯蚓鳴け恋の愁ひも聞いてやる
壇 老若を問はず日傘の黒と白 壇 この家は今年も紺の朝顔を
壇 日焼していよよ腕白盛りなり 壇 この家の紺の朝顔今年また
壇 君付けもさん付けも夏期講座かな 壇 割れ石榴あまりのことと言ふように
壇 水音の激しきプール開きかな 壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな
壇 学校に新しき友花は葉に 壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

表紙 4:45 am

2024.6.29 【俳壇賞2024 C 全112句】

9:30 9.29

4

選30句

12行3段組14ポ 2024年9月29日 02:19 へ1 桐10

壇 貸借の目玉眠たく暖かく

壇 花は葉に学校友得たりけり

壇 初雪の雨に消さるる小半時

3:37am

壇 うららかなや競馬なき日の競馬場

壇 長き夜の鼓動と呼吸怠らず

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 石鹼玉性善説を広めよと

壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空

壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 行く春と空に消えゆくエアメール

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 西方にまだ炎帝の背中見ゆ

壇 満月といふ恥ぢらひの無き光

壇 初詣の疲れと共に神仏

壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 水曜の朝の娘のハンカチフ

壇 蚯蚓鳴く恋の愁ひありぬべし

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 腕白のその腕までも日焼して

壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに

壇 老若の老の清しき夏期講座

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

貸借の目玉眠たく暖かく
ふたつあつた 3:26 am
貸してやま 9:30 29 3:25 am

行く春と空に消えゆくエアメール
かまこち E 2:26 am
かまこち E 2:24 am

X

蚯蚓鳴く恋の愁ひありぬべし
ほつほつと 3:34 am
ほつほつと 5 am

この家の紺の朝顔今年また
むに身 E 4:16 am
や 4:12 am

OK

2024・6・29 俳壇賞2024 C 全12句 選29句

△ 春なれや目玉眠たく暖かく

壇 長き夜の鼓動と呼吸怠らず

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 うららかや競馬なき日の競馬場

壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空

△ 壇 冬眠や日も夜もあらず真つ暗な

壇 石鹼玉性善説を広めよと

壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 雪折の見事な枝を生けてある

△ 壇 行く春と空の彼方へエメール

壇 満月といふ恥ぢらひの無き光

△ 壇 初詣の疲れを共に神仏

壇 西方にまだ炎帝がこちら向き

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す

壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 腕白のその腕までも日焼かな

壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに

壇 老若の老の清しき夏期講座

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

壇 花は葉に学校に友得たりけり

壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

大昔の甘くささく伊勢 11:2 am
 と振けて花はまぢる 11 am
 夕立に夕々消ゆる船の孤 11 am
 先石降る庄と共念の大仏 10:57 am

昭雨とや信の結はれぬころ 10:10 am
 灯を灯しほの 10:13 am

海きのつと紅白の 2024 9.29 10:40 am
 紅ノビ 白ノビ 10:44

紅白の村あり 10:47

2024.6.29 俳壇賞2024 C 全128句 選30句

9.29

壇 黄砂降る座して黄金の大仏

壇 長き夜の鼓動と呼吸息はず

壇 時雨るるや灯点し頃のジャンクシオン

ひまわり

13:38 秋夜の夜

壇 麗かや競馬なき日の競馬場

壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空

壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

壇 石鹼玉性善説を広めよと

壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 西方の炎帝がまだこちら向き

壇 ずんぐりと墓塚はあり尖りをる

壇 大寒の黄金仕立の卵焼

壇 汗かかぬ齢さびしと句に記す

壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く

壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 腕白のその腕までも日焼かな

壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに

壇 老若の老の清しき夏期講座

壇 流星の豊かなる夜をエアメール

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり

壇 花は葉に学校に友得たりけり

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 夕立に島々消ゆる船の旅

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

(K3) 山下町 9.29 13:13

花むぬじやまのつらねの色 2024 9.29 13:00

水は老人の秋老日 13:33

うつつふんは隣りに似る 四月 13:25

2024・6・29【俳壇賞2024 C 全13句】 選30句

9.30



壇 麗かや競馬なき日の競馬場

壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空

壇 時雨るるや灯点し頃のジャンクション

壇 ~~鬱憤に隣るウツフン四月馬鹿~~

壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ

壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

壇 城下町門前町や桜餅

壇 真つ暗な回送電車天の川

壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり

壇 石鹼玉性善説を広めよと

壇 ずんぐりと藁塚はあり尖りをる

壇 白鳥の腸重く着水す

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな

壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く

壇 大寒や砂糖たつぷり卵焼

壇 西方の炎帝がまだこちら向き

壇 この家の紺の朝顔今年また

壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 打水を終へしホースをぐるぐると

壇 冷水は老人のもの敬老日

壇 老若の老の清しき夏期講座

壇 割れ石榴あまりのことと言ふやうに

壇 水音の激しきプール開きかな

壇 流星の豊かなる夜をエアメール

壇 花は葉に学校に友得たりけり

壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり

壇 夕立に島々消ゆる船の旅

壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな

壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜

壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

Handwritten notes in red ink: 程替って水換りて辛餅もなうて 14:4
R? 茂松を以ってせむかむる如き度 9.30 14:10
の大抵ふろし 13:45

12行3段組14ポ 2024年9月29日 15:04 ↑ 桐10

2024・6・30 【俳壇賞2024 C 全142句】 選30句

8

12行3段組14ボ 2024年9月30日 14:36 へ1 桐10

壇 麗かや競馬なき日の競馬場 壇 真つ暗な回送電車天の川 壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

壇 石鹼玉性善説を広めよう 壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空 ~~壇 湯豆腐の忌ともいふべきうすあかり~~

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ 壇 白鳥の腸重く着水す

壇 城下町門前町や桜餅 壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く 壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘

壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて 壇 冷水は老人のもの敬老日 壇 大寒の大根おろし卵焼

壇 花は葉に学校に友得たりけり 壇 ずんぐりと藁塚丸く尖りをる 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 西の空炎帝がまだこちら向き 壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜

壇 打水を終へしホースをぐるぐると 壇 流星の豊かなる夜をエアメール

壇 老若の老の清しき夏期講座 壇 しぐるるや灯しころのジャンクション

壇 水音の激しきプール開きかな 壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

壇 夕立に島々消ゆる船の旅 壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり

~~壇 この家の紺の朝顔今年また~~ ~~壇 透きとほる顕微鏡下の寒さかな~~

手書きのメモ：
 16145 の見えず
 エ排し
 9.30 16:37
 16141
 16143
 夕段式ロケットのごと
 16143
 16141

2024・6・30【俳壇賞2024 C 全145句】 選30句



壇 城下町門前町や桜餅 壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空 壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘

壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて 壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ 壇 多段式ロケットのごと年新た

壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな 壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く 壇 ガスの火を電気に替へて初厨

壇 石鹼玉性善説を広めよう 壇 冷水は老人のもの敬老日 壇 乗らず見る山裾をぬふ初電車

壇 麗かや競馬なき日の競馬場 壇 ずんぐりと藁塚丸く尖りをる 壇 雪折の見事な枝を生けてある

壇 花は葉に学校に友得たりけり 壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜 壇 大寒の大根おろし卵焼

壇 西の空炎帝がまだこちら向き 壇 流星の豊かなる夜をエアメール

壇 打水を終へしホースをぐるぐると 壇 しぐるるや灯しころのジャンクション

壇 老若の老の清しき夏期講座 壇 初雪の雨に消さるるまでを見て

壇 水音の激しきプール開きかな 壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり

壇 夕立に島々消ゆる船の旅 壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下

壇 真つ暗な回送電車天の川 壇 白鳥の腸重く着水す

10
end

壇 城下町門前町や桜餅	壇 燃やせるごみ専用袋露に濡れ	壇 初夢にあふ誰かれの懐しき
壇 種蒔いて水撒いて草餅も食うて	壇 身をよぢる恋の話や蚯蚓鳴く	壇 ガスの火を電気に替へて初厨
壇 蜜蜂と共に旅から旅へかな	壇 冷水は老人のもの敬老日	壇 乗らず見る山裾をぬふ初電車
壇 石鹼玉性善説を広めよう	壇 秘かなる鼓動と呼吸秋の夜	壇 寝積むという正月の隠し玉
壇 麗かや競馬なき日の競馬場	壇 流星の豊かなる夜をエメール	壇 雪折の見事な枝を生けてある
壇 花は葉に学校に友得たりけり	壇 しぐるるや灯しごろのジャンクション	壇 大寒の大根おろし卵焼
壇 西の空炎帝がまだこちら向き	壇 初雪の雨に消さるるまでを見て	
壇 老若の老の清しき夏期講座	壇 木枯の吹き来る方へ離陸せり	
壇 水音の激しきプール開きかな	壇 月見ヶ丘海浜公園寒月下	
壇 夕立に島々消ゆる船の旅	壇 白鳥の腸重く着水す	
壇 真つ暗な回送電車天の川	壇 鬱憤とうつつふん並ぶ年忘	
壇 澄み渡る酸素と窒素秋の空	壇 多段式ロケットのごと年新た	